

第8 企業会計決算の状況

県が独立採算性を原則とする企業的色彩の強い事業を行う際に、法律や条例によって設置するもので、地方公営企業法の全部又は一部の適用を受ける公営企業の会計をいいます。

企業会計は、公共の福祉を目的とするとともに、企業の経済性を発揮することも求められており、その経理については、地方公営企業法の定めるところによります。

この会計方式は、一般のいわゆる官公庁会計が現金主義により経理されるのに対し、発生主義に基づく複式簿記により経理される点で大きく異なっています。

三重県では、公共の福祉を増進するため、水道事業、工業用水道事業、電気事業及び病院事業の4事業の経営を行っていますので、以下、それぞれの企業会計ごとに、その決算状況を説明します。

1 水道事業の概況

営業関係では、南勢志摩水道用水供給事業（給水能力138,150 m^3 /日）及び北中勢水道用水供給事業（北勢系・木曾川水系：給水能力80,300 m^3 /日、北勢系・三重用水系：給水能力51,000 m^3 /日、北勢系・長良川水系：給水能力18,000 m^3 /日、中勢系・雲出川水系：給水能力81,416 m^3 /日、中勢系・長良川水系：給水能力58,800 m^3 /日）の2事業を運営し、平成26年度は県内17市町に対し、延べ72,889,554 m^3 の給水を行いました。

平成26年度の営業成績について、事業収益は10,904,970千円（対前年度比112.6%）で、内訳は、営業収益9,311,390千円（対前年度比98.5%）、営業外収益1,025,921千円（対前年度比441.0%）及び特別利益567,659千円（皆増）であり、また、事業費用は8,660,388千円（対前年度比104.9%）で、内訳は、営業費用7,710,502千円（対前年度比105.9%）、営業外費用891,840千円（対前年度比91.8%）及び特別損失58,046千円（皆増）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額2,244,583千円が当年度の純利益となりました。

また、改良事業については、水道水の安定した供給を図るため、施設の耐震化や老朽劣化対策を実施しました。

一方、建設事業は、南勢水道拡張事業（総事業費 637,194 千円）が竣工し、平成 27 年 4 月から大台町への給水（1,700 m^3 /日）を開始しました。

平成 26 年度損益計算書 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

(単位：千円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	7,710,502	営業収益	9,311,390
原水及び浄水費	2,185,667	給水収益	9,307,735
配水費	531,501	その他営業収益	3,656
業務費	359,291		
総係費	281,211		
減価償却費	4,243,624		
資産減耗費	109,208		
営業外費用	891,840	営業外収益	1,025,921
支払利息	774,142	受取利息	18,449
受託工事費	114,691	他会計補助金	82,255
雑支出	3,007	受託工事収益	114,691
		長期前受金戻入	807,546
		雑収益	2,980
特別損失	58,046	特別利益	567,659
過年度損益修正損	58,046	過年度損益修正益	567,659
当年度費用合計	8,660,388		
当年度純利益	2,244,583		
合 計	10,904,970	合 計	10,904,970

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

平成26年度損益計算書<P/L> (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(単位：千円、% (構成比))

借 方	貸 方
営業費用 7,710,502 (70.7%)	営業収益 9,311,390 (85.4%)
営業外費用 891,840 (8.2%)	
特別損失 58,046 (0.5%)	
当年度純利益 2,244,583 (20.6%)	営業外収益 1,025,921 (9.4%)
	特別利益 567,659 (5.2%)

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

貸借対照表<B/S> (平成 27 年 3 月 31 日現在)

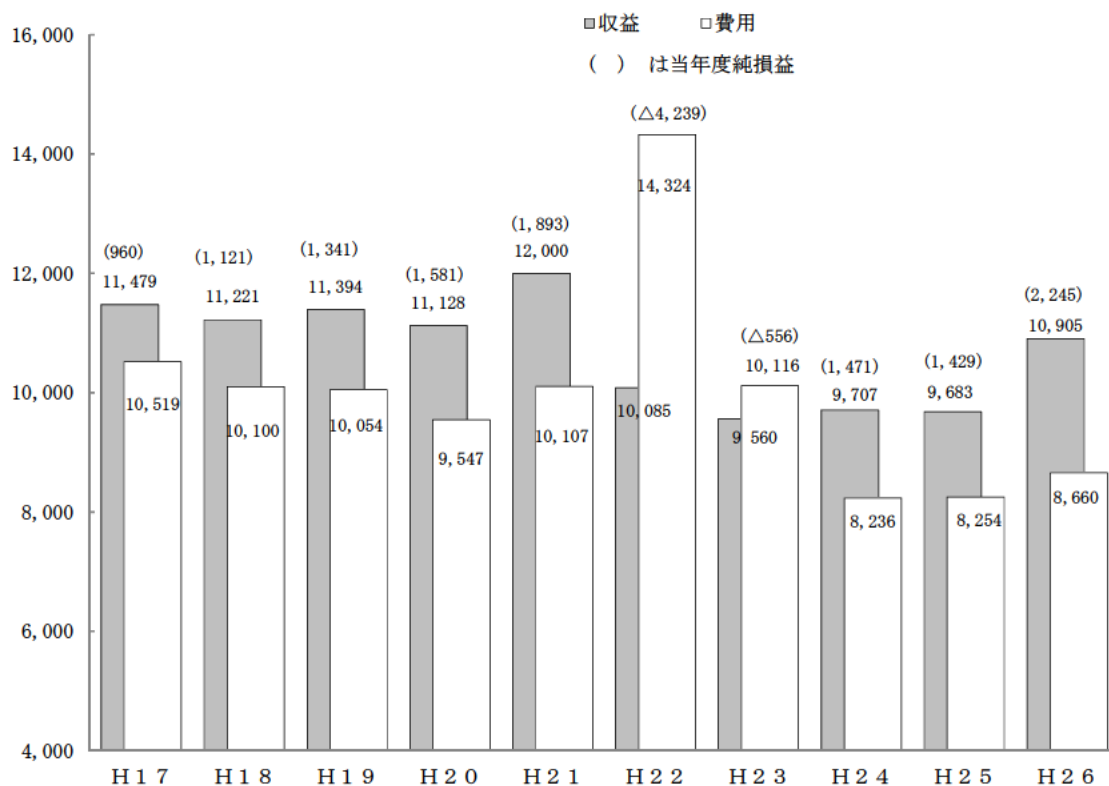
(単位：千円、% (構成比))

借方	貸方
固定資産 128,692,874 (87.9%)	固定負債 30,911,338 (21.1%)
	流動負債 4,678,201 (3.2%)
	繰延収益 24,982,478 (17.1%)
流動資産 17,731,114 (12.1%)	資本金 81,336,659 (55.5%)
	剰余金 4,515,312 (3.1%) 資本剰余金 869,153 利益剰余金 3,646,159

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移

(百万円)



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)

2 工業用水道事業の概況

営業関係では、北伊勢工業用水道事業（契約水量 724,820 m³/日）、多度工業用水道事業（契約水量 0 m³/日）、中伊勢工業用水道事業（契約水量 17,810 m³/日）、松阪工業用水道事業（契約水量 38,500 m³/日）の4事業を運営し、県内企業の生産活動における水需要に応えるため、平成26年度においては109工場に対し、延べ205,288,752 m³の工業用水を供給しました。

平成26年度の営業成績について、事業収益は13,412,723千円（対前年度比238.4%）で、内訳は、営業収益5,372,584千円（対前年度比95.9%）、営業外収益6,690,337千円（対前年度比27,150.1%）及び特別利益1,349,802千円（皆増）であり、また、事業費用は12,883,365千円（対前年度比261.7%）で、内訳は、営業費用4,890,396千円（対前年度比107.9%）、営業外費用355,946千円（対前年度比90.6%）及び特別損失7,637,023千円（皆増）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額529,359千円が当年度の純利益となりました。

一方、改良事業については、地震等の災害に備えるとともに工業用水の安定給水を図るため、北伊勢工業用水道等の老朽劣化施設の更新・補強工事など施設改良を計画的に実施しました。

平成26年度損益計算書（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	4,890,396	営業収益	5,372,584
原水及び浄水費	1,577,840	給水収益	5,050,123
配水費	164,695	その他営業収益	322,461
業務費	322,609		
総係費	273,474		
減価償却費	2,473,072		
資産減耗費	78,707		
営業外費用	355,946	営業外収益	6,690,337
支払利息	353,946	受取利息	13,837
雑支出	2,000	他会計補助金	3,425
		長期前受金戻入	6,668,976
		雑収益	4,100
特別損失	7,637,023	特別利益	1,349,802
減損損失	7,559,855	その他特別利益	1,349,802
過年度損益修正損	77,168		
当年度費用合計	12,883,365		
当年度純利益	529,359		
合 計	13,412,723	合 計	13,412,723

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

平成26年度損益計算書<P/L> (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(単位：千円、%(構成比))

借方	貸方
営業費用 4,890,396 (36.5%)	営業収益 5,372,584 (40.1%)
営業外費用 355,946 (2.7%)	営業外収益 6,690,337 (49.9%)
特別損失 7,637,023 (56.9%)	特別利益 1,349,802 (10.1%)
当年度純利益 529,359 (3.9%)	

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

貸借対照表<B/S> (平成27年3月31日現在)

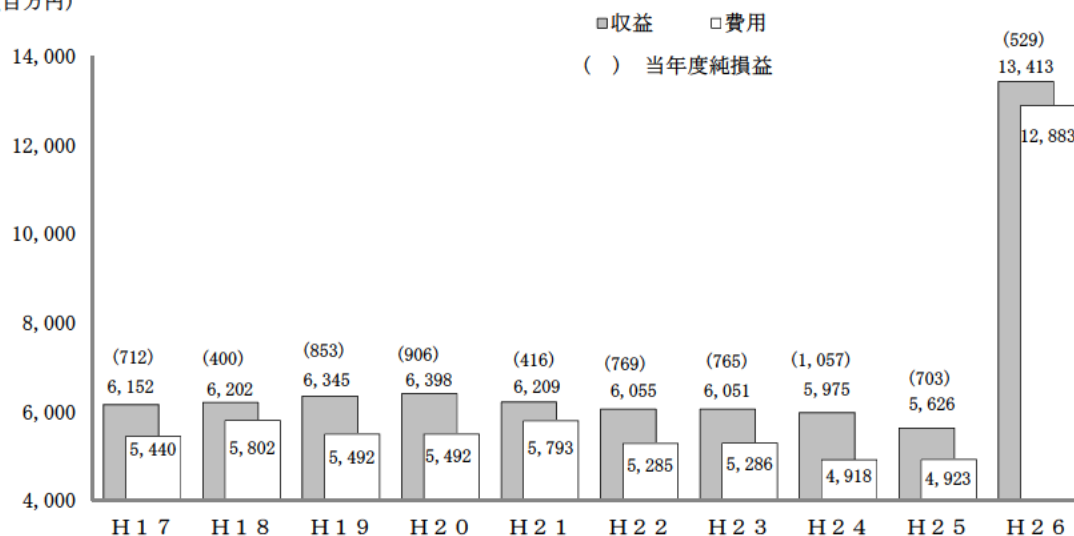
(単位：千円、%(構成比))

借方	貸方
固定資産 98,960,666 (88.2%)	固定負債 19,995,401 (17.8%)
	繰延収益 18,196,720 (16.2%)
	資本金 68,724,507 (61.2%)
流動資産 13,269,893 (11.8%)	流動負債 2,865,209 (2.6%)
	剰余金 2,448,723 (2.2%)
	資本剰余金 1,216,126
	利益剰余金 1,232,596

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移

(百万円)



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)

3 電気事業の概況

営業関係では、水力発電事業については、5月及び9月の降雨量が例年より少なかったことから、発電量は目標電力量 78,331,000kWh に対し、供給電力量 69,194,736kWh (88.3%)にとどまりました。

RDF焼却・発電事業については、三重ごみ固形燃料発電所において、製造団体からRDF 46,513トンを受け入れ、63,611,100 kWhの発電を行いました。

平成26年度の営業成績について、事業収益は3,359,017千円(対前年度比85.0%)で、内訳は、営業収益1,418,874千円(対前年度比54.8%)、附帯事業収益1,370,390千円(対前年度比101.1%)、営業外収益374,595千円(対前年度比3,720.3%)及び特別利益195,158千円(皆増)であり、事業費用は3,572,376千円(対前年度比96.0%)で、内訳は、営業費用1,562,639千円(対前年度比64.9%)、附帯事業費用1,051,865千円(対前年度比86.8%)、営業外費用58,093千円(対前年度比58.0%)及び特別損失899,779千円(皆増)です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額213,359千円が当年度の純損失となりました。

また、「宮川第一発電所、宮川第二発電所および蓮発電所に係る資産等の譲渡・譲受に関する契約書」に基づき、平成26年4月1日に、宮川第一発電所、宮川第二発電所及び蓮発電所の3発電所を中部電力株式会社に譲渡しました。

平成26年度損益計算書（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	1,562,639	営業収益	1,418,874
宮川第三水力発電費	218,724	電力料	1,418,177
長水力発電費	83,981	その他営業収益	697
三瀬谷水力発電費	589,287		
大和谷水力発電費	107,911		
青田水力発電費	230,571		
一般管理費	332,164		
附帯事業費用	1,051,865	附帯事業収益	1,370,390
RDF発電費	1,051,865	電力料	987,323
		その他附帯事業収益	383,067
営業外費用	58,093	営業外収益	374,595
支払利息	56,396	受取利息	5,229
雑支出	1,697	他会計補助金	3,915
		長期前受金戻入	364,611
		雑収益	840
特別損失	899,779	特別利益	195,158
固定資産売却損	280,235	その他特別利益	195,158
過年度損益修正損	619,544		
		収益合計	3,359,017
		当年度純損失	213,359
合 計	3,572,376	合 計	3,572,376

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

平成26年度損益計算書<P/L>（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

（単位：千円、%（構成比））

借 方	貸 方
営業費用 1,562,639 (43.7%)	営業収益 1,418,874 (39.7%)
附帯事業費用 1,051,865 (29.4%)	附帯事業収益 1,370,390 (38.4%)
営業外費用 58,093 (1.6%)	営業外収益 374,595 (10.5%)
特別損失 899,779 (25.2%)	特別利益 195,158 (5.5%)
	当年度純損失 213,359 (6.0%)

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

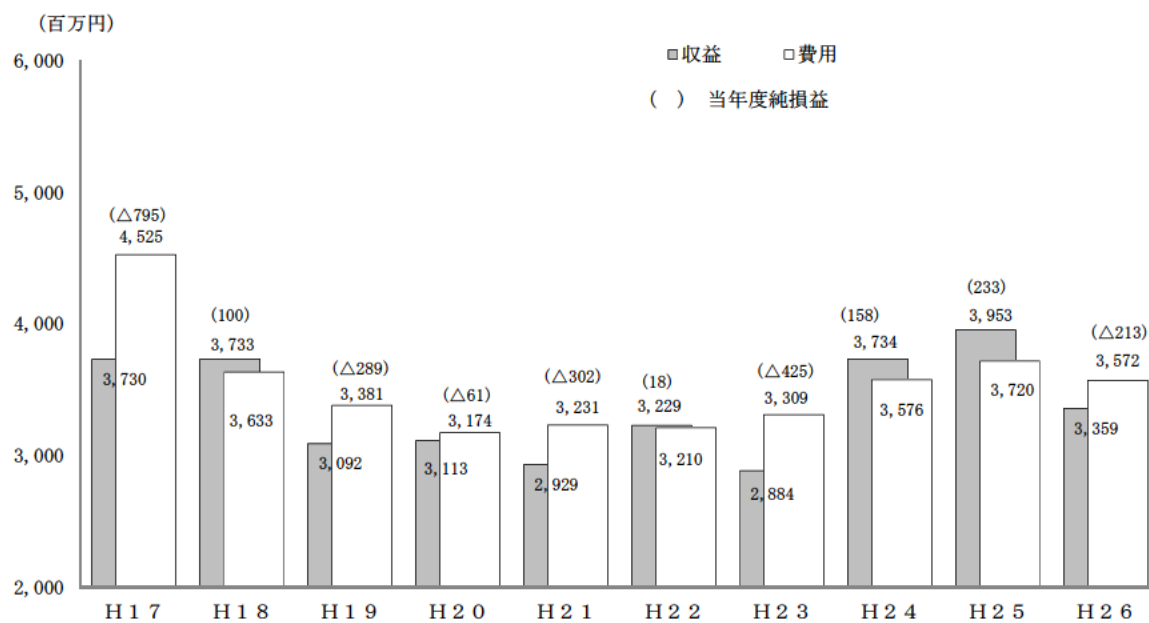
貸借対照表<B/S> (平成 27 年 3 月 31 日現在)

(単位：千円、%(構成比))

借 方	貸 方
	固定負債 740,846 (5.4%)
	流動負債 1,386,139 (10.2%)
固定資産 8,173,584 (60.0%)	繰延収益 982,969 (7.2%)
	資本金 12,963,625 (95.2%)
流動資産 5,445,925 (40.0%)	欠損金 △2,454,070 (△18.0%)

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)

4 病院事業の概況

三重県病院事業においては、こころの医療センター、一志病院及び指定管理者制度を導入した志摩病院の3病院を管理運営し、県民の皆さんや地域に信頼され、かつ医療従事者にとって魅力ある病院づくりを進めながら、良質で満足度の高い医療サービスの実践に努めているところです。

平成26年度は、「三重県病院事業 中期経営計画（平成25年度～平成27年度）」の「年度計画」に基づき、こころの医療センターにおいては、本県の精神科医療の中核病院としての取組など、一志病院においては、家庭医を中心とした地域医療の取組など、それぞれの役割やニーズに応じた病院運営を実施するとともに、経営の健全化に向けて取り組んできました。また、志摩病院においては、指定管理者である公益社団法人地域医療振興協会により、診療体制の段階的な回復を図りつつ、志摩地域の中核病院として運営を行ってきました。

3病院の患者数については、入院患者数が延べ190,130人（1日平均520.9人）、外来患者数が延べ160,163人（1日平均656.4人）で、前年度に比べ入院患者数は延べ5,985人の減少、外来患者数は延べ2,710人の増加となりました。

収益については、こころの医療センター及び一志病院において入院患者数が減少したため、医業収益が1.4%減少しましたが、地方公営企業会計制度の変更に伴い、新たに長期前受金戻入を収益に計上したことから、医業外収益が5.3%増加したため、経常収益は5,544,822,539円となり、前年度に比べ1.9%増加しました。

また、費用については、主に材料費、経費、減価償却費等の減額に伴い医業費用が減少したことから、経常費用は5,472,968,217円となり、前年度に比べ1.2%減少しました。

その結果、これらを差引した経常損益は、71,854,322円の黒字となりました。なお、地方公営企業会計制度の変更に伴い、退職給付引当金等1,397,134,000円を特別損失として計上したため、純損益は、1,325,279,678円の赤字となりました。

なお、施設及び設備の整備については、こころの医療センターにおける井戸さく井・送水設備工事や、一志病院における病棟屋上防水改修工事、志摩病院における厨房空調換気設備改修工事等により総額304,767,933円を執行しました。

平成 26 年度損益計算書（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
医業費用	5,186,495	医業収益	2,702,665
給与費	2,583,148	入院収益	2,101,718
材料費	251,352	外来収益	501,019
経費	1,703,506	その他医業収益	99,928
減価償却費	625,585		
資産減耗費	10,819	医業外収益	2,842,157
研究研修費	12,084	受取利息配当金	1,111
医業外費用	286,474	他会計補助金	169,562
支払利息及び企業債取扱諸費	157,117	長期前受金戻入	264,678
繰延勘定償却	41,693	補助金	4,348
患者外給食材料費	319	負担金・交付金	2,130,283
雑損失	87,344	その他医業外収益	272,175
特別損失	1,397,134	特別利益	-
		当年度収益合計	5,544,823
		当年度純損失	1,325,280
合 計	6,870,102	合 計	6,870,102

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

損益計算書＜P/L＞（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

（単位：千円、%（構成比））

借 方		貸 方	
医業費用	5,186,495 (75.5%)	医業収益	2,702,665 (39.3%)
医業外費用	286,474 (4.2%)	医業外収益	2,842,157 (41.4%)
特別損失	1,397,134 (20.3%)	当年度純損失	1,325,280 (19.3%)

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

貸借対照表<B/S> (平成27年3月31日現在)

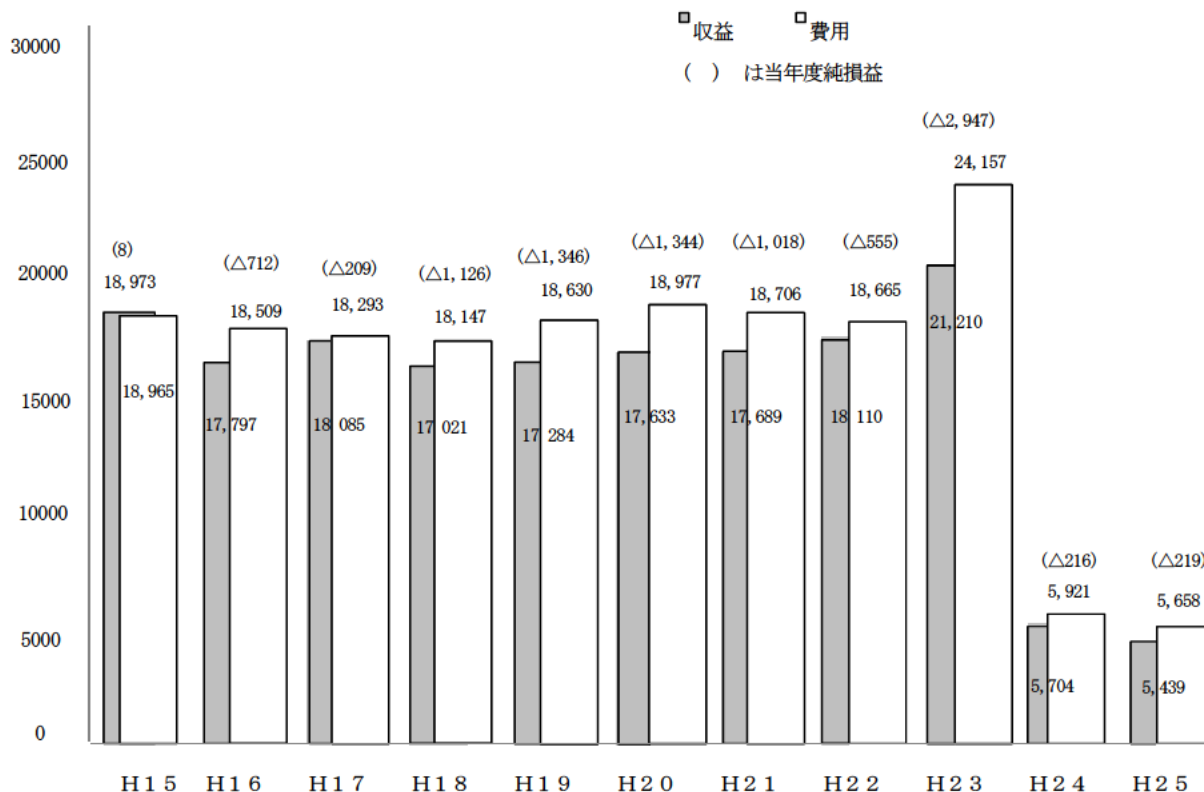
(単位：千円、%(構成比))

資 産		負債・資本	
固定資産	9,570,157(86.4%)	固定負債	15,384,522 (138.9%)
		流動負債	1,608,200 (14.5%)
		繰延収益	2,328,553 (21.0%)
		資本金	311,410 (2.8%)
流動資産	1,507,313(13.6%)	剰余金	△8,555,216 (△77.2%)
		資本剰余金	827,608
		累積欠損金	9,382,824

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移

(百万円)



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)